鎌ケ谷市郷土資料館だより 第58号

目次

○新資料展示を開催 …… 1
○歴史講演会Ⅱを開催／郷土資料館この一品⑯ …… 2
○春の自然観察会を開催／鎌ケ谷大仏が動いた！…… …… 3
○史料整理の現場から⑦ …… 4

文化財に親しもう
新発見！鎌ケ谷のたからもの
～新資料展示を開催・5/29まで～

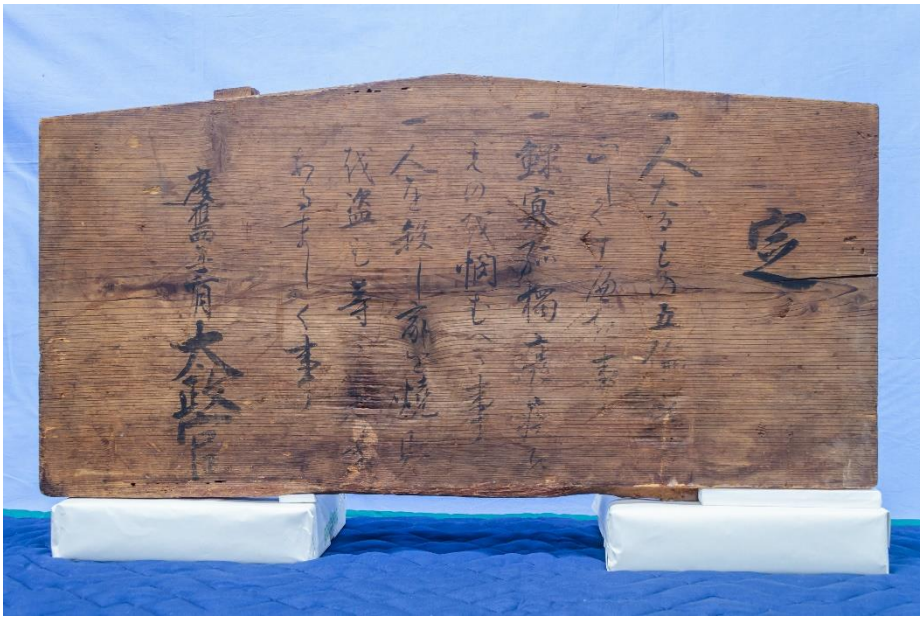
令和２年度に市が発掘・調査した埋蔵文化財と、郷土資料館が発見・整理した歴史・民俗資料の主なものを展示します。展示品の多くは、初めて公開するものばかりです。ぜひ、新しく仲間入りする「鎌ケ谷のたからもの」をご覧ください。

中沢貝塚出土の耳飾り

展示内容　◆埋蔵文化財＝中沢貝塚・木戸脇貝塚・大木戸貝塚(中沢)などから出土した遺物、遺跡の写真パネル、中沢貝塚の貝層剥ぎ取り断面　◆歴史・民俗資料＝市内で発見・調査した明治・大正・昭和・平成時代の歴史資料(ふすまの下張り文書含む)、民俗資料(民具)の現物、市域を撮影した写真のパネル　◆令和２年度に郷土資料館へ移管された市歴史公文書　◆令和２年度末に寄贈された市指定文化財「旧道野辺村高札(慶応４年(1868)「太政官布告」〈五榜の掲示〉)

展示期間　５月２９日(日)まで。ただし、毎週月曜日と３月２２日(火)、４月２９日(金)、５月３日(火)～５日(木)は休館

会場　郷土資料館２階小展示室ほか



旧道野辺村に掲げられていた高札

昭和30年代の真空管ラジオ

歴史講演会Ⅱを開催

ふすまの下張りに隠されていた地域の歴史

郷土資料館では、「ふすまの下張りに隠されていた地域の歴史」をテーマに、今年度２回目の歴史講演会を開催します。

「ふすまの下張り」というと、何やらミステリアスな響きがあります。かつての和風建築では普通に見られたふすまには、作成するときの下張りとして、文書の反故（ほご）紙が使用されることがありました。反故となった文書は、当時の人は不用と考えたのでしょうが、現在の私たちにとっては近世から近代にかけての歴史を知る上でかけがえのない史料となることがあり、市内でもそのような事例がいくつか確認されています。

今回の講演会では、市域を含め多くの下張り文書に関わった第一人者が、貴重な歴史資料が復元できた事例を紹介し、隠されていた歴史を紐解きます。

下張りにはどの様な歴史が隠れているのでしょうか

対象　市内在住・在勤・在学の人
日時　３月１３日(日)午後２時～４時
場所　中央公民館３階学習室１
定員　３８人(応募者多数の場合は抽選)
講師　神山知徳さん(昭和学院中学校･高等学校教諭)

郷土資料館この一品⑯

鎌ケ谷市域模型

今回は昨年末に資料館へやってきた市域模型を紹介します。

これは昭和５３年に作成し、平成９年に当時の街の状況に改修したもので、平成２１年頃まで市役所の市民課側の入口に設置していたことから、目にしたことのある方もいらっしゃるかもしれません。しかし、故障や模型の街並みの更新、設置場所など様々な理由から設置が難しくなったため、倉庫に保管していたものです。

市域模型(初富駅周辺)

大きさは南北方向１６０㎝、東西方向１２０㎝あります。５千分の１縮尺（高さは地形の凹凸を表現するため２倍）で立体的に忠実に再現した模型は、およそ四半世紀前の状況ですが、鎌ケ谷市の街並みや周辺の地形状況を知る上で重要であり、また、今日の姿に変わりつつある一瞬を捉えた貴重な資料でもあることから、このたび資料館で展示することとなりました。

なお、見学にあたっては、施設名や地名など平成９年当時のままであることから、現在では名称や場所が変わっているものもあること、また、古い設備なのでランプが切れて点灯しない場所がありますので、そうした資料であることをご了承ください。

申し込み　２月２７日(日)までに郷土資料館☎４４５－１０３０(FAX:４４３－４５０２)へ。抽選結果は３月３日(木)までに連絡します

早春の大津川沿いを歩こう！

＝ 春の自然観察会を開催 ＝

市内でも自然をよく残している大津川沿いを散策しながら、野鳥や植物を観察し、早春の自然とふれあってみませんか。

日時　３月５日(土)午前９時３０分～正午(雨天の場合は６日(日)に順延)

集合場所　北部公民館(車での来場はご遠慮ください)

定員　１５人(応募者多数の場合は抽選)

保険料　５０円

講師　唐沢孝一さん(都市鳥研究会顧問)

服装　歩きやすいもの・運動靴

申し込み　２月２４日(木)までに郷土資料館☎４４５－１０３０(FAX:４４３－４５０２)へ。抽選結果は２７日(日)までに連絡します

歴史講演会・自然観察会共通

◎新型コロナウイルス感染症の状況により、歴史講演会や自然観察会が中止になることがあります。あらかじめご了承ください。

◎新型コロナウィルス蔓延防止のため、当日はマスクを着用してください。

◎平熱より１℃以上高い熱がある方。また、咳やだるさ、息苦しさなどの症状がある方や、一緒に暮らしている人に発熱や風邪の諸症状が認められる方は、受付済みであっても入場をお断りさせていただきます。ご了承ください。

鎌ケ谷大仏が動いた！

～調査・修復を実施～

鎌ケ谷市の指定文化財第１号である「鎌ケ谷大仏」は、当市を代表するシンボルの一つです。木下街道沿いに鎮座するこの鎌ケ谷大仏を、昨年１１月１７・１８日の両日にかけて調査のため移動しました。

これは大仏が蓮座の中心よりズレていることと、土台の石組みにも亀裂などが見られたため、併せて状態を調査することにしたものです。

鎌ケ谷大仏をクレーンで吊り上げ内部を確認したところ、大仏本体の前後にあったズレ防止の突起の前部分が切断されて、機能していなかったことがズレた原因と判明しました。

また、今回の調査では、表からは分からない鋳造工程の詳細も知ることができ、当時の鋳物師の技術を垣間見ることができました。

仮台へ移動中の鎌ケ谷大仏

調査で得られた成果については、今後展示を予定しています。

なお、石組みの調査も終え、無事中心に戻った鎌ケ谷大仏は、昔と変わらず駅前で人々を見守っています。

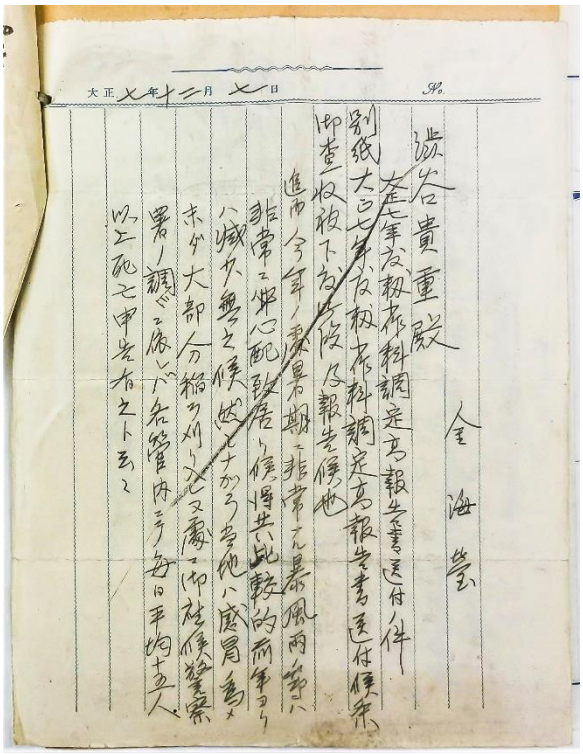
【史料整理の現場から⑦】

紙背に残された100年前のスペイン風邪流行の記録

市内佐津間の旧家である澁谷家には、近世～近・現代の膨大な史料群が伝存しています。市としての史料調査は、当館開館以前の昭和５９年（1984）の第１次調査以降、令和２年（2020）に整理を始めた第１４次調査に及び、現在も継続して行っています。

澁谷家文書の中で、とりわけ近・現代の史料には、不用となった紙（一般に広く反故紙と呼ばれる、使用済みの紙や使われなくなった未使用紙類）の裏（紙背）や余白を使用して作成した書類が多く見られます。

写真は、昭和２０～３０年代の綴の中に使用されていた、１枚の紙の裏（本来の表側）を撮影したものです。大正７年（1918）１２月７日付けで、金海瑩という人物から渋谷家当主に宛てた、大正７年度の収穫高調定報告書の送付状です。



スペイン風邪の流行を示す史料（大正７年）

当時渋谷家では、朝鮮全羅南道（現大韓民国南西部）において農場を経営しており、金海瑩は現地事務所（現羅州市内に所在）の管理人を勤めていました。のちにその事務は農場が所在する行政区が代行することとなり、収入の半分が教育費として寄付されるようになります。

さて、本文に続く追伸の部分に、次のように記されているのが注目されます（下線は執筆者により付したものです）。

追而今年ノ処暑期ニ非常ナル暴風雨ノ節ニハ非常ニ心配致居リ候得共、比較的前年ヨリハ減少無之候、然シナガラ当地ハ<u>感冒ノ為メ未ダ大部分稲ヲ刈リ入レヌ処ニ御座候、警察署ノ調べニ依レバ各管内ニテ毎日平均十五人以上死亡申告有之</u>ト云々

処暑の頃（８月下旬～９月上旬）の暴風雨では心配していたほど収穫量の減少はなかったものの、感冒が流行したため、未だ大部分が稲の刈入れを終えていないこと、現地警察署各管内では毎日平均１５人以上の死亡者が確認されていたことがわかります。

「感冒」とあるのは、日本では当時「流行性感冒」とも表記されていた、スペイン風邪（インフルエンザ）のことと想定されます。大正７年１２月は世界的に第２波の流行期にあたり、罹患数に比して致死率が上昇した時期でした。文面からは、朝鮮半島南部においても、被害が拡大していた様子がうかがえます。

当時から約１００年後、新型コロナウイルス感染症の第６波流行の危機に直面するなかで見つかった記録ですが、このような状況でなかったなら見過ごしてしまっていたかもしれません。

鎌ケ谷市郷土資料館だより　第 58 号　令和４年２月 15 日発行　　編集・発行：鎌ケ谷市郷土資料館
住所：〒273-0124　鎌ケ谷市中央 1-8-31　Tel：047-445-1030　Fax：047-443-4502
メール：kyodo@city.kamagaya.chiba.jp
ウェブサイト：http://www2.city.kamagaya.chiba.jp/sisetsu/kyoudo_2/index.html